

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	東住吉区
学 校 名	大阪市立矢田東小学校
学校長名	梶原 進

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・矢田東小学校では、第6学年 36名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

令和7年度の学力・学習状況調査の結果は、3教科ともに全国平均・大阪市平均を下回る結果となった。しかしながら、これまで国語・算数に見られていた二極化した正答数の分布傾向が右寄りになる正規分布に近づいた。また無回答率においても、国語は全国平均を下回り大阪市平均にも0.1ポイント差まで近づいた。また理科においても全国・大阪市を下回らないまでも近づくことができています。

区分Ⅳの割合については、今年度においてみると全国・大阪市平均を下回ることができていないが、令和3年度からの経年でみても3教科において全て半数以下に減少している。大きな躍進は見られないが、少しずつ向上の兆しが見えてきている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕平均正答率でみると、全国・大阪市平均を上回っていないが、大阪市とは7ポイント、全国とは8.8ポイントの差に縮まっている。また、「言語の特徴や使い方に関する事項」の正答率が全国・大阪市よりも大幅に上回ることができた。しかし「読むこと」に関しては、全国・大阪市平均と比べて10ポイント下回っている。正答数分布は全体的に右寄りの正規分布に近くなった。

〔算数〕国語と同様に、全国・大阪市平均を下回ることとなった。「データの活用」に関して大幅に下回っていることは課題の一つである。しかし、正答数分布がなだらかな正規分布の傾向がみられる。

〔理科〕国語・算数と同じように全国・大阪市平均を下回ることとなった。特に「A区分」の問題に対しての正答率が低い。正答数分布について、国語・算数に比べて低位の集団が多くやや二極化しつつある。

質問調査より

「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定的な回答が、88.6%と全国・大阪市平均を上回っている。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的回答が100%であることで、学校へ行くことも楽しくなっていると思われる。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の肯定的回答がともに100%である。普段からの人権教育における学習が浸透してきていると考えられる。

学習の状況では、学校の授業時間以外の学習時間においては、全国・大阪市に比べ少ない。家庭での読書の時間も少ないことが質問紙で課題としてあがってきた。学校だけでなく、家庭での学習・読書習慣の定着も啓発していきたい。

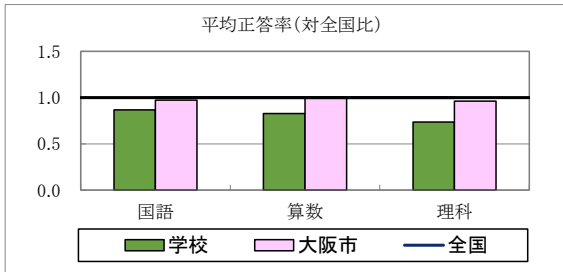
今後の取組(アクションプラン)

国語・算数の2教科については、経年で見ていくと少しずつではあるが正答率は向上している。基礎基本の定着が成果として現れ始めていると思われる。正答数分布をみると、これまで二極化の傾向が強かったが、今年度は2教科ともに正規分布の傾向が見られるようになった。国語において「言語の特徴や使い方に関する事項」の正答率が、今回は全国・大阪市平均ともに上回ったが、まだまだ下回っている事項がみられる。算数においても、全体的に10ポイント近く差がみられる。これらについては、学力調査の傾向、今求められている学力について見通した授業の改善をしていく必要がある。また、学校以外での学習や読書に対しても、興味を持って取り組めるような啓発も行っていく必要があると考えられる。

【 全体の概要 】

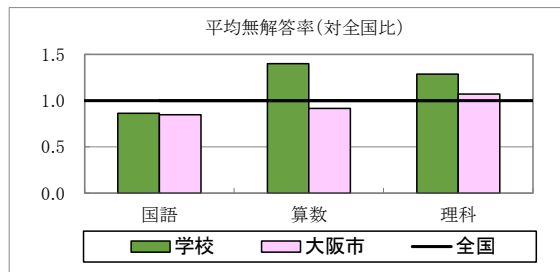
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	58	48	42
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	2.9	5.0	3.6
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



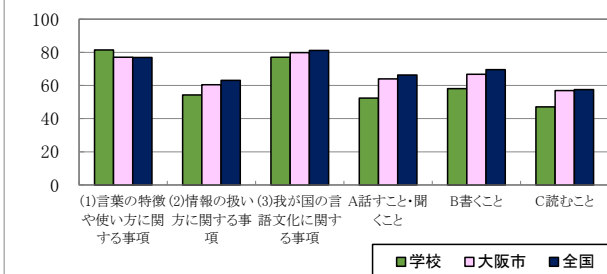
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	81.4	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	54.3	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	77.1	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	52.4	64.0	66.3
B 書くこと	3	58.1	66.7	69.5
C 読むこと	4	47.1	56.9	57.5

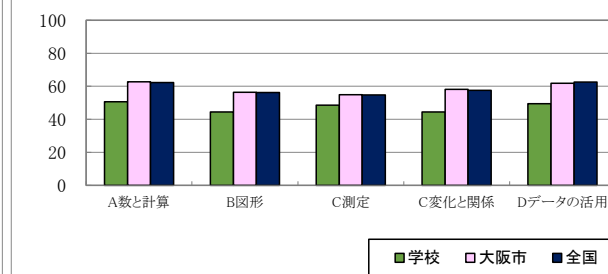
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	50.7	62.7	62.3
B 図形	4	44.4	56.4	56.2
C 測定	2	48.6	54.9	54.8
C 変化と関係	3	44.4	58.2	57.5
D データの活用	5	49.4	61.9	62.6

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)

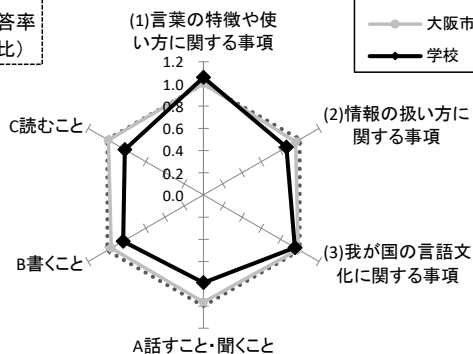


算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



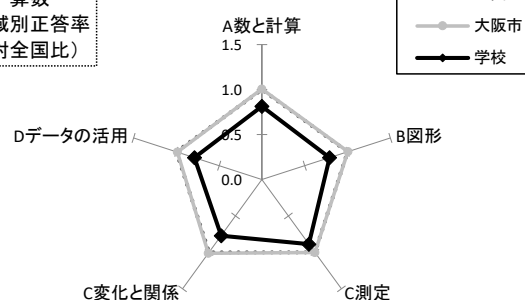
国語

内容別正答率
(対全国比)



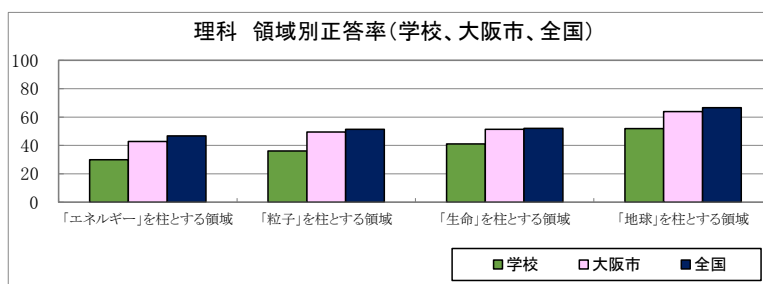
算数

領域別正答率
(対全国比)

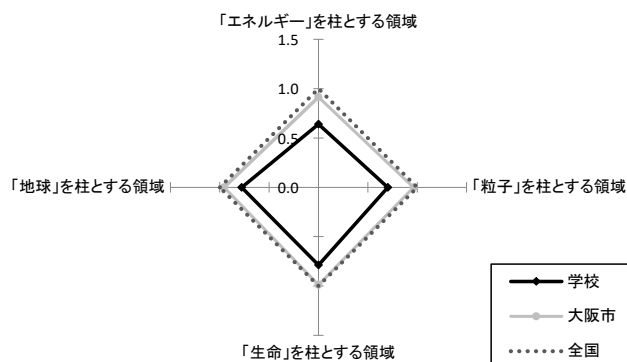


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分 「エネルギー」を 柱とする領域	4	29.9	42.7	46.7
分 「粒子」を 柱とする領域	6	36.1	49.5	51.4
B 区分 「生命」を 柱とする領域	4	41.0	51.4	52.0
分 「地球」を 柱とする領域	6	51.9	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

質問番号

質問事項

5

自分には、よいところがあると思いますか

1

2

3

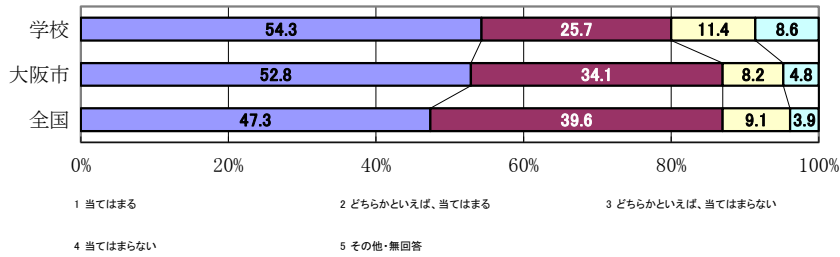
4

5

6

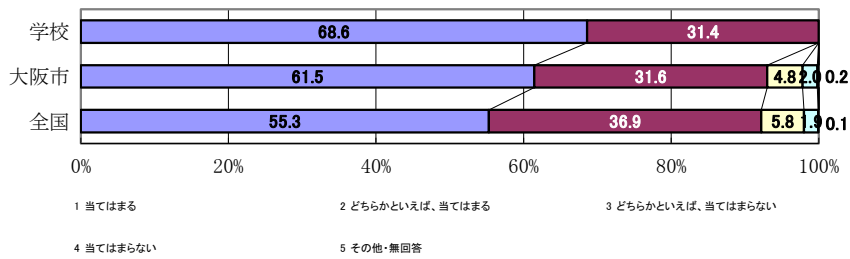
7

8



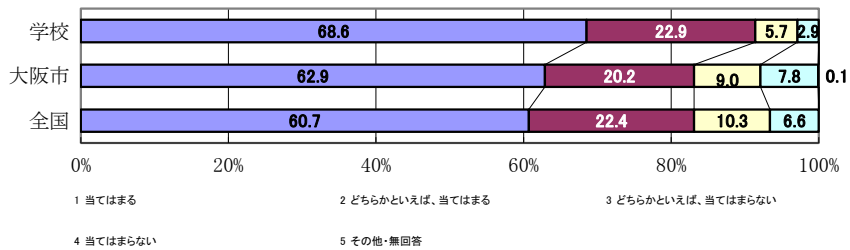
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



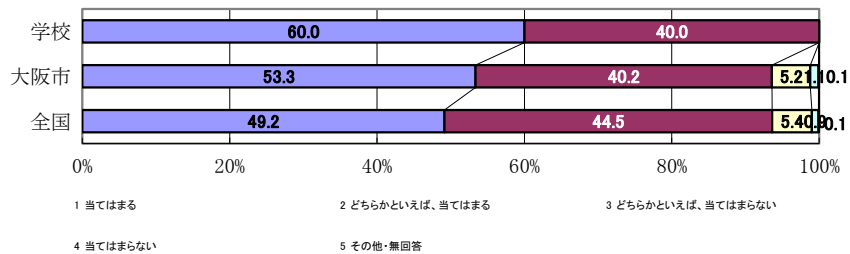
7

将来の夢や目標を持っていますか



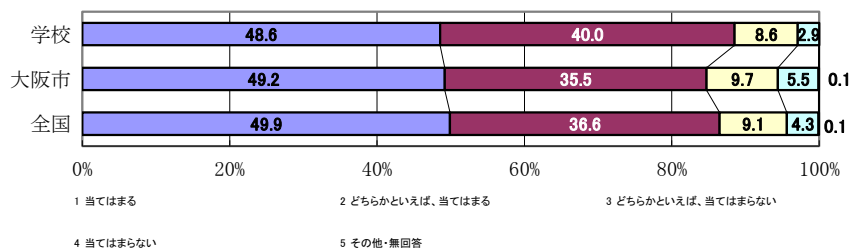
8

人が困っているときは、進んで助けていますか



12

学校に行くのは楽しいと思いますか



学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

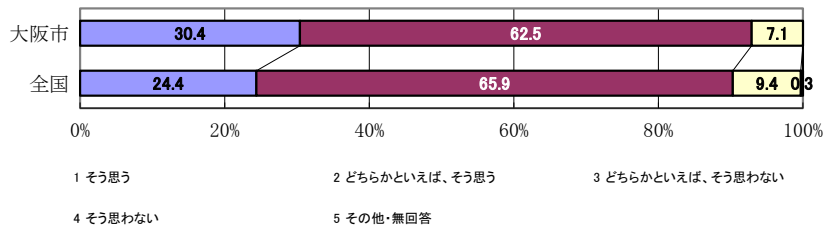
質問番号

質問事項

7

調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか

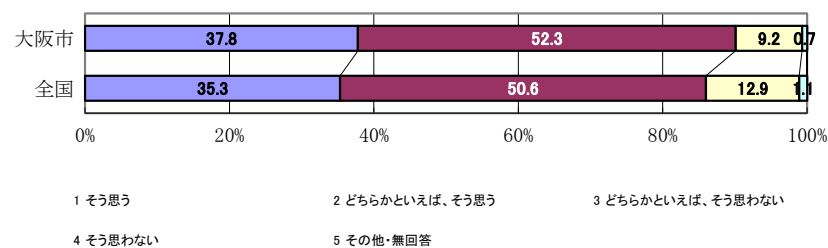
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

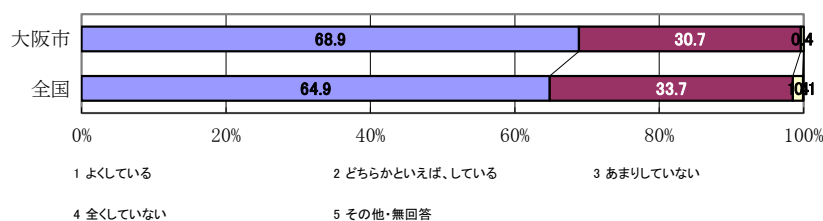
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

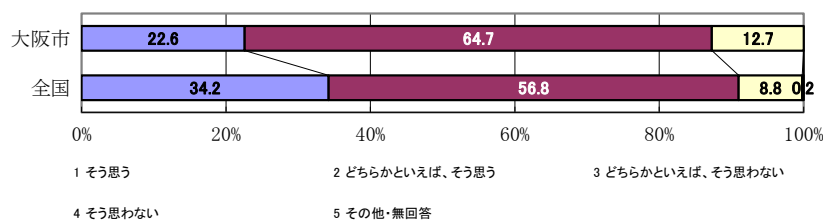
学校 「どちらかといえば、している」を選択



22

今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



23

教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していると思いますか

学校 「そう思う」を選択

